

メラネシアから世界を覗く

— 現代ソロモン諸島の人と暮らし

Speaker

橋爪 太作 Hashizume Daisaku

(人類学・社会学研究者)

南太平洋に位置するソロモン諸島は、日本では太平洋戦争の激戦地として知られていますが、日米両軍が戦うはるか以前から、この土地には人が居住し、独自の慣習を営んできました。近代文明と貨幣経済が浸透した21世紀の現在でも、この社会には私たちのそれとは異なる常識・実践が脈々と息づいています。

この地での研究を志した私は、本格的な調査に向けた予備調査として、今年5月に3週間ほど滞在しました。今回はその時撮影・録音した素材をお見せしつつ、私の目に映ったソロモン社会の姿をお話したいと思います。

上：ソロモン諸島ガダルカナル島マラウ地方のカヌー／下：大日本帝国海軍戦艦「霧島」

中国人商人の車に投げつけられる石礫、戦争遺跡の周りで囁かれる途方もない富のうわさ、精霊の棲む島に逃げ込んだ難民たち……グローバルな力とローカルな力が混ざり合う汽水域に生きる現代ソロモン人たちの姿は、単なるエキゾチックな「未開人」でも、はたまた普遍的な「近代人」でもなく、むしろ私たち自身の背中を映し出しているようにも思えます。

時間の関係で具体的な体験談が中心になるかと思いますが、そうした個々の事例の背後にある、「異なるもの」を経験し思考する人類学という学問の意味について少しでもお伝えできれば幸いです。

会費

講演：持てる者は持てるだけ（カンパ制）／懇親会：2500円前後

場所

武蔵野市本町コミュニティセンター第2会議室（3F）
東京都武蔵野市吉祥寺本町1-22-2 / 吉祥寺北口（JR中央線・井の頭線）徒歩3分 ※今後トカラ塾の会場は吉祥寺です。

参加連絡

050-7542-2018（稲垣一雄）
info@tokarajuku.ne.jp
※懇親会のみ参加の方は上記アドレスにご連絡ください。

主催

文化結社トカラ塾 (<http://www.tokarajuku.sakura.ne.jp/>)

